

A black and white photograph of two hands in business attire writing on sticky notes on a desk. The hands are positioned in the center of the frame, with one hand on the left and one on the right. The desk is covered with several sticky notes, some of which are being written on. A spiral notebook is visible on the right side of the desk. The background is slightly blurred, showing more of the desk and some office equipment.

SUMIDA INNOVATION CORE 共創の軌跡

2025



SUMIDA INNOVATION CORE (SIC) とは	1
共創の実現に向けた SICの提供価値	3
主要な提供機能・プログラム	5
活動実績・成果	11
共創プロジェクト 32	13
共創ストーリー	21
コラム 浜野製作所・共創の軌跡	27

SUMIDA INNOVATION CORE (SIC) とは

コンセプト

想いと技術で つぎの未来を共創する場

ものづくりは、困難の連続だ。
ひとつの成功の前には、たくさんの挫折と失敗が待っている。

けれど、私たちは知っている。
あなたには諦められない夢があることを。

私たちは信じている。
あなたが生み出す「モノ」が暮らしに感動と変化を与え、
新しい景色をつくってくれることを。

だから、まずは一緒にやってみませんか。

無限の可能性を秘めるこのすみだには、
あなたの想いをカタチにしてくれる様々な職人の技術と
近くであなたを支えてくれる人情あふれる仲間がいます。

伝統と革新が共存するまち、すみだから
人と技術と創造力で未来を拓く
新しい「モノづくり」を実現していく。

さあ、私たちと
つぎの未来を共創しましょう。

ロゴマークとストーリー



モノづくりの道具や素材をモチーフにした、直線、
曲線などの多様な形状のイニシャル「S」「I」「C」
で組まれたロゴマーク。多様な「想い」「アイデア」
「技術」が、ここ「SUMIDA INNOVATION CORE」に
集まり、融合することで、新たな「モノづくり」が
生まれていく様を表現しています。

SICの設置目的

「産業集積のアップデート」実現に向けて

墨田区は「近代軽工業発祥の地」であり、1970年には、9,703もの製造業の事業所が集積する「ものづくりのまち」として発展してきました。しかし、高度経済成長期以降、製造業の事業所数は減少し、本区の特徴である製造業を中心とした産業集積が薄れつつあります。これまで脈々と受け継がれてきた「ものづくりのまち」を未来へ継承していく必要があります。

そこで、墨田区ではSICを拠点に「産業集積のアップデート」に取り組んでいます。「産業集積のアップデート」とは、これまでの製造業を中心とした集積を、ものづくりを起点とした幅広い業種に

よる新しい産業集積の形にしていくものです。

墨田区の産業集積に新しいピースとして、スタートアップ・学生起業家・クリエイター等を迎え入れることで、新たな産業集積を構築していきます。SICは、すみだに蓄えられたものづくりの技術・人材と、すみだの強い地域ネットワークを活かして、スタートアップを支援し、区内事業者等との共創を生み出す「産業共創施設」です。

共創により各企業の成長・発展を促し、「ものづくりのまち すみだ」が持続的に発展するために重要な「産業集積のアップデート」へとつなげていきます。

SICの提供機能

スタートアップ
集積機能

共創を志す
スタートアップの集積

スタートアップ
支援機能

共創や事業成長を促進する
プログラムの提供

コミュニティ形成・
情報発信機能

スタートアップと
区内事業者等の交流を促進

成長・共創支援

共創創出を通じた区内事業者支援機能


創業初期スタートアップ

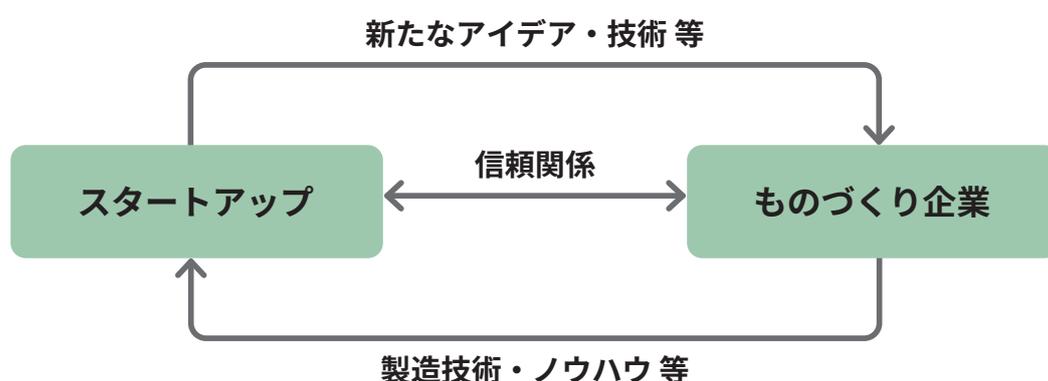



区内ものづくり企業等

共創の実現に向けたSICの提供価値

共創とは

SICにおける共創とは「信頼関係を築いたうえで、お互いの強みやアイデアを活用して、新たな価値を生み出すこと」を意味しています。スタートアップとものづくり企業では、価値観・文化・言語・ビジネスモデル等が大きく異なります。そのため、SICでは相互理解と信頼関係の構築を共創の第一歩として大切にしています。

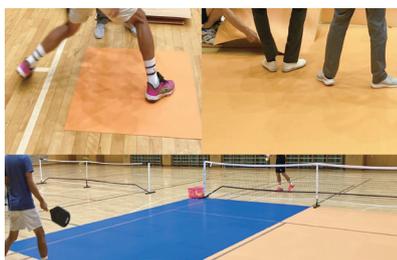


共創のパターン

SICは、スタートアップの成長と区内事業者の経営基盤強化を図り、地域の産業競争力を強化する役割を担っています。そのため、ものづくりの技術力を生かした共創のみならず、ものに捉われない様々なパターンの共創も育んでいます。

技術転用による 新規製品開発

蓄えてきたものづくりの技術を新たな分野に転用して、スタートアップと製品開発に取り組む



▶ P.21 共創ストーリー参照

ものづくりの 上流へのシフト

製品企画・開発・設計等の上流から関与し、ものづくり企業自らが社会課題解決に取り組む



▶ P.23 共創ストーリー参照

ものに捉われない 新規事業の創発

スタートアップの新たなアイデア・技術等を活用して、社内経営改革や新規事業の創発に取り組む



▶ P.24 共創ストーリー参照

「SICならではの」の提供価値

SICは「価値共創・交流・発信」拠点として、具体的な共創事例を創出し、区内・区外に広く発信することによって、「SICならではの」提供価値を訴求していきます。

提供価値の訴求によって、区外のスタートアップ等がすみだへと集まり、区内事業者は自身の事業との関わりや活用イメージを描き、SICの活用を促進していきます。

「SICならではの」の提供価値

共創を軸とした機能の提供

SICが提供する全ての機能・プログラムは、一気通貫で共創の創出につなげるものとなっている

ものづくりを軸とした地域ネットワーク

プロトタイプ開発を強みとする多様なものづくり企業・拠点や、大学・民間大企業等が集積する

人と人との濃いつながり

想いや情熱をベースに動く地域文化や、「ひと、つながる。墨田区」を体現する人々の存在がある

事業連携パートナー

SICのコンセプトである「地域ネットワークを活用した価値共創・交流・発信」に寄与する取組・価値を提供する企業・団体に事業連携パートナーが参画しています。



株式会社 浜野製作所

ハードウェア系スタートアップ
に対する支援力の強化

▶ P.27 コラム参照



アーバンデザイン センターすみだ

SIC発のプロジェクトを地域へと
拡大・浸透

▶ P.25 共創ストーリー参照



東京東信用金庫

スタートアップの資金需要や
経営相談に対する対応力向上

▶ P.24 共創ストーリー参照



東武鉄道株式会社

鉄道事業を中心に墨田区と広域を
つなぐ観光領域のプロジェクト推進

▶ P.26 共創ストーリー参照

共創を生むステップ

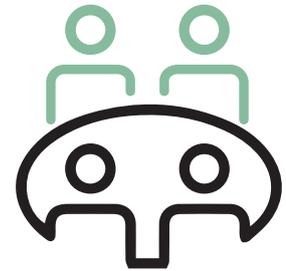
SICでは共創の実現に向けて、「準備・計画・実行・展開」と4つのステップに合わせて、一気通貫した支援プログラムを提供しています。各プログラムはスタートアップに加えて、区内ものづくり企業向けにも提供しており、スタートアップを軸とした共創と区内ものづくり企業自らが共創の主体となるケースも増えています。



主要な提供機能・プログラム

スタートアップ集積機能

墨田区での共創を志すスタートアップの集積を図る機能です。
スタートアップと区内ものづくり企業の交流・共創に必要な施設機能・空間として、共創を促進するオープンなスペース「THE CORE」と、カンファレンスやイベント等の多様な交流事業を開催するコミュニケーションスペース「THE STAR」を整備しています。

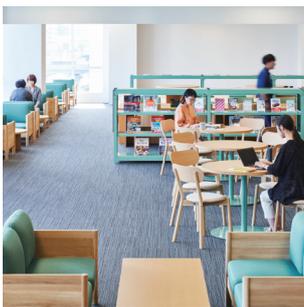


主な機能・プログラム



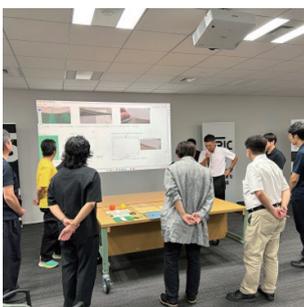
多様なSIC会員の集積

SICには、すみだでの共創を通じた成長を目指す「スタートアップ会員」、区内ものづくり企業である「区内事業者会員」、スタートアップの成長や共創を支援する「パートナー・メンター会員」等の会員区分を設けています。会員登録の際には面談を行っており、SICの目的と合致したメンバーが集積しています。



すみだのものづくりを体感できる空間

SICに設置している家具の多くは、金物・木工・皮革・畳等の区内ものづくり企業が造作しています。また、スタートアップの新たなアイデア・技術を体現したプロダクトも数多く展示しており、実際にすみだのものづくりに触れて体感できる空間を提供しています。



ものづくりを軸としたプログラム

共創に関する基礎知識の獲得やスタートアップ・区内ものづくり企業がお互いの理解を深めるための「ものづくり習熟度向上プログラム」や、スタートアップが試作品を持参して区内ものづくり企業と開発改良の意見交換をする「ものづくり意見交換会」等の共創意欲を喚起するプログラムを提供しています。

会員の声



墨田区の若手後継者グループ
「継創」

企業の垣根を越えた熱量の高い 墨田区の若手グループの活動の場に

東京・墨田区の「家業がある家」に生まれた30代を中心としたメンバーで構成するグループ「継創」は、家業をテーマにした交流の場の企画・開催等の活動をしています。SICでは昨年「継創サロン」を開催。また一大イベント「継創フェス」の開催に向けて積極的・定期的に活用される等、日々、熱量の高い打ち合わせを重ねています。

実際に見れる・触れる製品展示で SICがサテライトのビジネスの場に

カミカグは、「美しい、強い、軽い」を追求したダンボール製デザイン家具を製造しています。ハードウェアスタートアップのオフィスはものづくりの現場を兼ねておりオープンスペースが少ないため、来客対応が難しい時が多々あり、SICの製品展示によって自社製品に興味をもってくださる方々との打ち合わせがスムーズにできています。



写真中央：株式会社カミカグ 和田 亮佑 氏



写真左：株式会社 SakuraRide 米内 義晴 氏
写真右：株式会社ぶんぶく 竹内 一江 氏

「ものづくり意見交換会」で出会い 新たな製品開発の共創をスタート

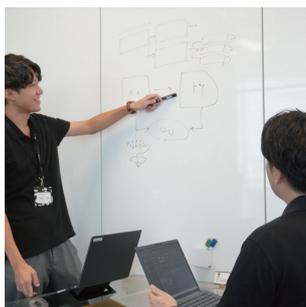
ぶんぶくは、板金から溶接・組み立て・塗装・梱包発送まで行っているワンストップの区内ものづくり企業です。「ものづくり意見交換会」でフォールディングバイクのロッカー開発を検討している SakuraRide と出会い、一緒に製品開発をすることが決まりました。「ものづくり習熟度向上プログラム」にも参加し、新しい製品企画に全力で取り組んでいます。

スタートアップ支援機能

共創や事業成長を促進するプログラムの提供を通じて、スタートアップの支援を図る機能です。スタートアップの成長段階に応じたメンタリングを行う専門家相談支援、スタートアップから共創ニーズを発信するピッチイベントの開催、共創プラン・共創パートナーの獲得につながるアクセラレーションプログラム等の提供を行っています。

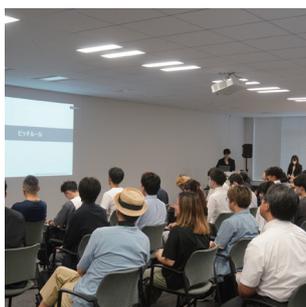


主な機能・プログラム



スタートアップ専門家相談支援

スタートアップ相談員が週に1回程度SICに常駐し、個別相談の機会を設けています。ビジョン策定・顧客開発・採用・資本政策・PR等、各相談員が支援可能分野や得意領域を持っており、スタートアップの成長段階に応じた体制でメンタリングを実施しています。



ピッチイベント SIP

主にハードウェアスタートアップが共創ニーズを発信し、区内事業者や大企業等との共創につなげるピッチイベント「Sumida Innovation Pitch (SIP)」を年4回開催しています。SIPでのピッチ後にネットワーキングも開催しており、参加者同士の交流により、多くの共創企画が生まれる場となっています。



SPARK・プロトタイプ実証実験

アクセラレーションプログラム「SPARK」では、約半年間の集合研修・個別メンタリング・マッチング機会等の提供を通じて、共創プラン・共創パートナー獲得を伴走しています。プロトタイプ実証実験では、最大3年間の実証実験・実装支援の機会提供を通じて、社会課題解決と新規ビジネス創出を伴走しています。

会員の声



写真中央：株式会社片岡屏風店 片岡 孝斗 氏
株式会社 SeiRogai
写真左：ユエン・サムミヨル 氏／
写真右：リン・レイチェル 氏

スタートアップ相談員の丁寧な伴走で 伝統製造業×VR・ECの共創創出

東京都で唯一の屏風専門店・片岡屏風店は、店舗が観光主要ルートから外れており、海外を含む集客の課題を抱えています。課題の分析、VR+EC連携型サービスを有するスタートアップ・SeiRogaiとのつなぎこみ、共創プランの練り上げまで、スタートアップ相談員が伴走支援を行い、プロトタイプ実証実験の採択にもつながりました。

ピッチイベントSIPでの出会いから モビリティ実証実験の共創を開始

東芝では、SIPに定期的に参加してスタートアップ業界の情報収集をされています。SIP・モビリティ特集に登壇したナチュラニクスバッテリーパック開発技術と高い親和性があり、スタートアップ相談員がつなぎこみをしました。現在は、タイで電動バイクタクシーのドライバー向けバッテリーサブスクリプションサービスの実証実験をしています。



写真右：株式会社東芝 石井 張愛 氏
写真左：株式会社ナチュラニクス
金澤 康樹 氏／山口 浩 氏



合同会社 Atelier Ars
栃本 礼 氏

SPARKを活用して個人事業主・ 準会員から法人化・スタートアップ会員へ

アメリカで取得した資格を生かして個人事業主でジュエリー製作・販売をされてきました。区内ものづくり企業と一緒にジュエリー開発をしたいと考え、SPARKに応募。伴走支援を受けながら、下町を体現したオリジナル「想身具」の開発・販売へと共創プランを昇華して、事業化に向けて法人登記・スタートアップ会員へとステップアップしました。

コミュニティ形成・情報発信機能

コミュニティ・マネージャによる利用者同士のつながりの促進やイベント等の開催を通じて、スタートアップと区内ものづくり企業等の共創・交流の促進を図る機能です。コミュニケーションスペース「THE STAR」を中心に月10回以上の交流事業を実施しており、スタートアップと区内ものづくり企業を中心とした「すみだらしい」コミュニティ形成を目指しています。



主な機能・プログラム



コミュニティ・マネージャ

コミュニティ・マネージャはSICに常駐し、施設に来館した会員の皆様へのお声かけや小さなお困りごとからビジネスに関する相談事のお伺いや、交流事業の企画も行います。会員や地域との接点となり、利用者同士のつながりを促進するように動いていますので、お気軽にお声掛けください。



会員交流会をはじめとする多様な交流事業

毎月、多様な交流事業を企画・開催しています。様々な会員が集うコミュニケーションイベントである「SIC会員交流会」が毎月開催されているほか、共創事例を紹介するセミナーや勉強会等も開催しています。SIC会員自らが交流事業を企画する利用者企画イベントも活発に開催されています。



アルムナイネットワークをはじめとするコミュニティ

SIC全体でのコミュニティと個別コミュニティの形成を進めています。SPARK・プロトタイプ実証実験の採択・卒業企業で構成されるアルムナイ（同級生・卒業生）ネットワークでは、交流会を通じた近況報告・ビジネス機会の情報交換・アルムナイメンバー間での新たな共創へのチャレンジ等を行っています。

会員の声



一般社団法人 Spice

写真左：郡司 日奈乃 氏／写真右：小牧 瞳 氏

コミュニティ・マネージャが 会員同士をつないで共創の創出へ

教育学を専門とする Spice は、子ども・若者の声をまちづくりに反映するカードゲーム「Express your own VIEWS」を開発して SIC に展示しています。SIC で展示に関心を有する会員の方々を、SIC に常駐するコミュニティ・マネージャがつなぎこみをしたことで、Spice と会員である区内ものづくり企業でワークショップの開発を行う共創へと発展しました。

新しい面白い出会いを探して 会員交流会の場に参加

サトウ化成は、ウレタン・スポンジ等の発泡素材を中心に工業製品から雑貨まで各種製作を行っています。面白いものをつくるためのヒントを探しに、SIC の会員交流会の場に積極的に参加されています。交流会で出会うスタートアップの発想・技術は新しい・面白いものが多く、新しい出会いによって世界が広がっているとのこと。



有限会社サトウ化成
佐藤 憲司 氏



写真左：株式会社石井精工 石井 洋平 氏
写真右：匠技研工業株式会社 原 崇文 氏

区内ものづくり企業とスタートアップの 垣根を越えた関係・つながり

匠技研工業と石井精工は、プロトタイプ実証実験で金型製造業の見積業務 DX に取り組んでいます。日々の実証実験に加えて、アルムナイの活動として、一緒にセミナーに登壇して金型製造業の DX の可能性や課題を双方の視点から伝えています。区内ものづくり企業とスタートアップの垣根を越えて信頼関係を築きながら、タッグを組んで共創を進めています。

活動実績・成果

「スタートアップ集積機能」「スタートアップ支援機能」「コミュニティ形成・情報発信機能」の各機能で活動実績^{*}を積み重ねてきました。

スタートアップ集積機能

会員数

来館者数

581社(者) **1,572**人 **25,471**人

すみだでの共創やものづくりに興味・関心を有するスタートアップ・区内ものづくり企業・地域団体・スタートアップ業界関係者等の集積を実現

スタートアップ支援機能

専門家相談受付数

共創プログラム参画数

570件以上 延べ**75**社(者)以上

スタートアップ専門家相談のニーズに順調に応えるとともに延べ75社(者)以上のスタートアップ・区内ものづくり企業の共創への関与を実現

コミュニティ形成・情報発信機能

交流事業開催数

内、利用者企画開催数

300回以上 **110**回以上

SIC主催で数多くの共創・交流の機会の開催に加えて会員による利用者企画が増加しておりコミュニティ活性化を実現

SIC開設から2年間の活動実績・成果[※]として、多くの共創事例とともに、共創によって区内への経済効果を創出することができています。

共創プロジェクト

共創プロジェクト数

75件

区内ものづくり企業関与率

30%

SIC開設から2年間で75件の共創プロジェクトを創出
区内ものづくり企業が主体的に関与している共創プロジェクトは30%に達し
スタートアップと区内ものづくり企業双方の成長につながる支援を実現

共創から生まれた区内経済効果

区内経済効果

約4億円

SICの支援を通じて獲得した新規売上・経営コスト削減・資金調達等を調査
区内に立地する事業者及びスタートアップにおいて
SIC開設から2年間で約4億円の経済効果を創出

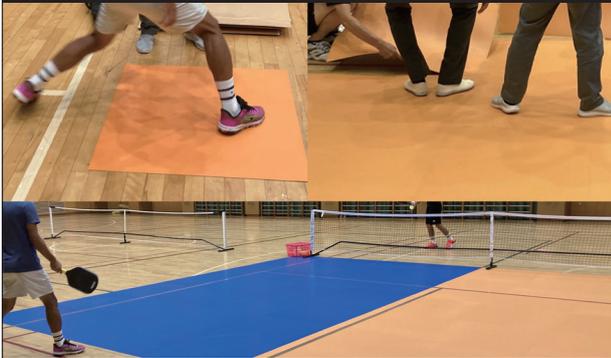
※令和7年9月末時点での活動実績・成果

共創プロジェクト 32

開設から2年間で70を超える共創プロジェクトが

スタートアップ×区内ものづくり企業等の共創

1 区内ものづくり企業の技術を活用した ニュースポーツ製品の開発改良



■ プロジェクト概要

BAKUAGEの有するニュースポーツへの知見・ネットワークと区内ものづくり企業であるナガセケンコーの有する技術・経験を掛け合わせたニュースポーツ製品の開発・販売

■ 目指している効果

ニュースポーツ新製品（ピクセルボールコートマット）の開発・売上増加及び新製品の活用による区民運動習慣の定着

[共創メンバー]

- スタートアップ：株式会社BAKUAGE
- 区内ものづくり企業：ナガセケンコー株式会社

2 りんごの残渣を活用したエシカルレザー RINGO-TEX®による製品開発



■ プロジェクト概要

apcycleのエシカルレザー RINGOTEX®による区内の皮革事業者が有する技術力を活用した新製品開発

■ 目指している効果

ものづくり職人の手による、アップルレザー製品の高付加価値化やラインナップ拡大
高付加価値化や量産化を通して、ものづくり職人の技術力向上や処遇向上等に寄与していく

[共創メンバー]

- スタートアップ：apcycle株式会社
- 区内ものづくり企業：有限会社東屋

3 区内ものづくり企業とのすみだを 体現したオリジナル装身具の開発



東京下町
想身具店
TOKYO
SHITAMACHI
ACCESSORY
SHOP

■ プロジェクト概要

Atelier Arsが手掛けるブランド「東京下町想身具店」のもと区内ものづくり企業の自社技術を生かしたオリジナル装身具を開発・販売

■ 目指している効果

区内ものづくり企業が自ら一般ユーザー向けプロダクトの企画・開発を行うことによる新たな収益源の確立、社内風土の醸成、社員育成機会の確保

[共創メンバー]

- スタートアップ：合同会社Atelier Ars
- 区内ものづくり企業：東商ゴム工業株式会社、有限会社サトウ化成、株式会社石井精工

4 スマホで眼科診療を可能とする 医療機器の開発・製造等の連携



スマホで対応可能な
眼科診療機器

■ プロジェクト概要

OUIは、関東合成工業とSmart Eye Camera製造に関する共創に取り組む中で、Sumida Innovation Pitchを通じて事業進捗や今後の事業戦略を踏まえたプロダクトの課題を共有し、デバイス改良や新製品開発における共創を加速

■ 目指している効果

製品改良及び製品開発の効率的な運用を通じた世界の失明の低減

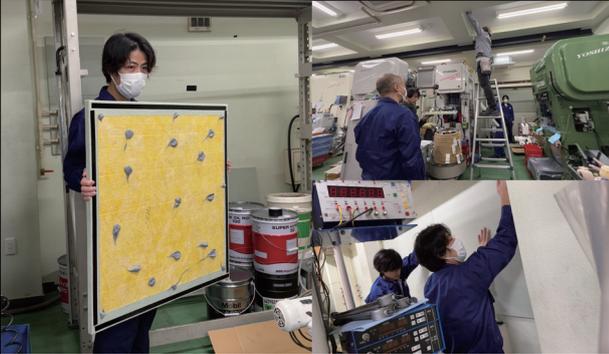
[共創メンバー]

- スタートアップ：株式会社OUI
- 区内ものづくり企業：関東合成工業株式会社



32のプロジェクトの取組内容やスキーム図については
こちらのQRコードからご覧いただけます▶

5 地域住民と工場の共生を助ける防音プロジェクト



プロジェクト概要
製造業向けに特化した新規防音プロダクトを開発して工場へ設置。工場内外の定量的な音の変化と、周辺住民や工場内で働く従業員の音に対する定性的な意識変化を検証

目指している効果
防音製品を新たに開発・設置し、工場の騒音と近隣地域住民への影響を軽減するとともに、工場内の作業環境改善を図り、地域住民と工場の共生を目指す

[共創メンバー]

- 区内ものづくり企業：株式会社ヨシズミプレス
- スタートアップ：株式会社ピットアパット
- 区外企業・団体：株式会社中外

6 区内ものづくり企業の遊休資産を活用したものづくり空間・活動の創出

1年目 モノづくり工場、工房など遊休資産・時間の活用

2年目 空きスペース(空き家)の活用

現在(イメージ)



工場内の空きスペースor空き時間を活用

空き家を自社取得し、ものづくり拠点+コミュニティ型スペースへ改装

活用後

工場、工房での体験ワークショップ、法人の撮影ロケ地としてスペース提供

商品の展示スペース(Popup) コミュニティ型店舗

プロジェクト概要
区内ものづくり企業が有する空きスペースや区内に存在する空き工場・空き家を活用して、区内ものづくり企業向けのプロダクト展示・販売スペースやものづくり系交流スペースとし、企業の新規収益獲得やものづくりの関係人口創出を実証

目指している効果
遊休資産を活用したものづくり空間・活動の創出による「ものづくりのまち すみだ」としての景観・文化の継承・発展

[共創メンバー]

- スタートアップ：株式会社MY ROOM
- 区内ものづくり企業：有限会社東屋、マイスターズグリット株式会社

7 国際認証を取得した「土に還る服」の区内ものづくり企業との共同開発



めぐる、服。
つくること、つかうこと、そして、おさえること。
そのすべてに責任を持つことは、難しいけれど、本来とても自然なことかもしれません。
私たちは「特別な服」よりも、自然に馴染みやすい「土に還る服」をつくりたいと思っています。
何度も試して、何度も考えて、気づきは少しずつデザインに反映していきます。
Syncaの服は、自然のリズムに寄り添いながら、最後には静かに姿を消していきます。
それを考えるということは、あらゆる面から、もっと足を踏み入れること。
所有することを前提にしない、
いざれ手を離れていくものとして、あらかじめ設計する。
わたしたちが誰かが作るのではなく、あぐりながら開発をつないでいくように。
自然と、使い手とつくり手、時間とともに輝きあう関係性。
Syncaは、それらすべてが静かに共存する物語を紡いでいます。
日々のなかの、小さなひとつの選択から、ゆるやかに輝かぬめぐりが、ここからはじまります。

プロジェクト概要
「土に還る服」の国際認証を区内の繊維事業者と共同取得し、当該衣類の販売・回収や教育機会としての展開を通じた衣類のゼロウェストを目指すエコシステムの構築

目指している効果
ゼロウェストを目指す「土に還る服」というブランディングを通じた区内ものづくり企業の競争力強化と消費者の環境意識向上

[共創メンバー]

- スタートアップ：Synca.Design 株式会社
- 区内ものづくり企業：丸和繊維工業株式会社

8 区内ものづくり企業と共同開発するIoTロッカー活用によるフォールディングバイクシェアリングサービスの展開



プロジェクト概要
区内ものづくり企業と連携してシェアリングに対応した車体格納用IoTロッカーを開発。ロッカーを区内拠点に設置してフォールディングバイクのシェアリングサービスを展開。将来的には折りジナルバイクの開発を目指す

目指している効果
フォールディングバイクの普及による墨田区の観光客を含む区内回遊性の向上や区の魅力向上

[共創メンバー]

- スタートアップ：株式会社SakuraRide
- 区内ものづくり企業：株式会社ぶんぶく

スタートアップ×区内ものづくり企業等の共創*

9 スタートアップ×地域金融機関×区内ものづくり企業の共創による中小企業のDX推進



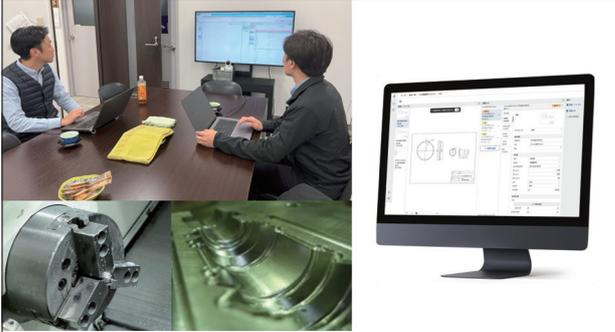
■ プロジェクト概要
ノーコードツールを活用した中小企業のDXを目指すセラピア、セラピアのサービス導入によりDXを成し遂げさらに他企業のDX支援を新規事業としているバキュームモールド、地域金融機関である東京東信用金庫との連携による地域中小企業のDX促進

■ 目指している効果
地域金融機関の顧客網を活用した地域中小企業のDX化の促進及びその効果の区内への波及

[共創メンバー]

- スタートアップ：株式会社セラピア
- 区内ものづくり企業：バキュームモールド工業株式会社
- 区内企業・団体：東京東信用金庫

10 金型製造業におけるAIを活用した見積業務のDX



■ プロジェクト概要
匠技研工業が有するAI見積支援システムを基盤として、金型製造業である石井精工と協議を重ねながら、加工に関する知見をAIアルゴリズムに学習させ、見積システムの機能拡充を行う。さらに、本システムを活用して見積業務フローを再構築し、現場への導入を実施する

■ 目指している効果
見積業務の難易度が高い金型製造業における見積業務のさらなる「適正化」「標準化」「効率化」の実現

[共創メンバー]

- スタートアップ：匠技研工業株式会社
- 区内ものづくり企業：株式会社石井精工

11 VR技術を活用した屏風製作等に関する魅力発信と販路拡大支援



■ プロジェクト概要
訪日外国人観光客に向けた屏風のものづくり工程に関する情報発信や屏風の実販売につなげる販売促進支援

■ 目指している効果

- ・ 訪日外国人観光客に対する屏風の伝統的価値の発信
- ・ 屏風関連イベントへの参加や屏風の注文購入促進
- ・ オンラインでの認知度向上や売上拡大への寄与等

[共創メンバー]

- 区内ものづくり企業：株式会社片岡屏風店
- スタートアップ：株式会社SeiRogai

12 アバターロボットを活用した子どものメンタルヘルス見守りシステム



ZeroToInfinity株式会社

HaCha
「画像処理」
「AI体調管理システム」

ChiCaRo
チカロ

アバターロボット
「ChiCaRo」

■ プロジェクト概要
幼施設や福祉施設等においてロボットを介し、子どもの状態把握や発達状況に関わる早期発見及び継続支援の実現

■ 目指している効果

- ・ ロボットをアイコンに子どもの交流や発達状況に対する関心を醸成する
- ・ 子ども個々人の状況を連続的に把握することで、日常的な支援継続する

[共創メンバー]

- スタートアップ：株式会社ChiCaRo、ZeroToInfinity株式会社

*No.12はスタートアップ×スタートアップの共創

スタートアップ×区内大学等の共創

13 認知症の予兆検出サービス開発・精度向上による高齢者福祉の充実

脳の健康の
小さな変化に気づくことで、
健康に長生きする人生へ。

はなしてね

2分間話だけで脳の健康の変化に
手軽に早く気づける新しい音声測定アプリ



■ プロジェクト概要

IGSA・大学・研究機関・行政で認知症の前段階であるMCIの早期発見に取り組む。高齢期における認知機能低下を、スマートフォンを利用して早期かつ負担が少ない形で評価する検出サービスの開発・精度向上を図り、社会実装を行う

■ 目指している効果

スマホアプリで気軽に実施してMCIの気づきを得られる脳の健康測定により、自ら健康をチェックして、改善行動を取ることができると高齢者福祉の充実した世の中の実現

[共創メンバー]

- スタートアップ：株式会社IGSA
- 区内大学：千葉大学予防医学センター
- 行政：墨田区高齢者福祉課
- 区外企業・団体：東京都健康長寿医療センター

14 センサーを活用した健康促進サービスによる高齢者や区内事業者社員の健康増進

Moff



サービスイメージ



■ プロジェクト概要

Moffが提供するオンラインを活用した健康プログラムを提供し、千葉大学の助言を得ながら身体機能上昇・QOL向上に資するかを実証。第1弾は地域在住のプレシニア・シニア層に3ヶ月間限定でサービスを提供。第2弾として健康経営に取り組む区内事業者・竹徳にデジタル体力測定を提供し、社員向けウォーキングイベントで意欲等向上につながるかを実証

■ 目指している効果

スマホ・オンラインを活用した健康プログラムによる高齢者の健康増進・デジタルデバйд解消・QOL向上、健康経営に取り組む企業の従業員の健康増進と転倒等の労災防止

[共創メンバー]

- スタートアップ：株式会社Moff
- 区内大学：千葉大学予防医学センター
- 区内企業・団体：株式会社竹徳

15 都市部における雨水の活用による資源の再利用の促進・水インフラの実用化



■ プロジェクト概要

小規模分散型水循環システムを接続したトレーラーハウス（iU敷地内設置）でWOTA社員が生活し、雨水を活用した再生水利用における水量の充足度を検証。iU学生とのワークショップを実施し、水再生循環システムのユーザビリティも検証し、実証結果を踏まえてシステム量産化開発を加速させている。（R7年に家庭用水循環システム「WOTA Unit（ウォータ・ユニット）」を上市）

■ 目指している効果

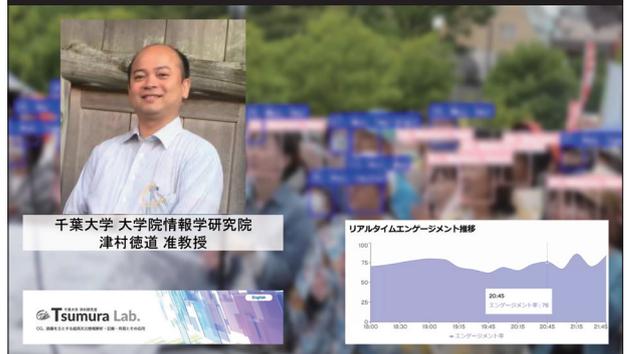
「小規模分散型」の水インフラの整備による地域の水問題の解決

※本プロジェクトは令和4年度プロトタイプ実証実験支援事業にて採択。
概要は「令和4年度採択実証成果詳細」より抜粋

[共創メンバー]

- スタートアップ：WOTA株式会社
- 区内大学：iU情報経営イノベーション専門職大学

16 表情解析技術による観客の盛り上がり 定量化によるエンタメの活性化



千葉大学 大学院情報学研究院
津村徳道 准教授

■ プロジェクト概要

DJ Roboticsが開発しているリアルタイムの観客の動作や表情等から観客の盛り上がりデータをデータ化して見える化するAI分析ツールを用いて、イベント体験の付加価値向上を検証。千葉大学津村研究室と表情解析技術に関する連携を実施

■ 目指している効果

インバウンド需要増加への対応を通じた墨田区への来訪者の増加、地域イベントの付加価値向上による若年層の地域イベント離れの解消

[共創メンバー]

- スタートアップ：合同会社DJ Robotics
- 区内大学：千葉大学津村研究室

スタートアップ×区内事業者・団体等の共創[※]

17 オリジナル子ども靴の開発と子ども靴のすみだ循環モデルの実現



■プロジェクト概要

SlowFastが東武鉄道のIPを活用した子ども靴の販売、子ども靴のリユース事業、靴の回収施策を掛け合わせて、子ども靴の循環型モデルの実現を目指す

■目指している効果

靴の製造・販売・回収・レンタルでのリユースまでを一気通貫で行い、子ども靴の循環モデルを確立して子ども靴のエシカル消費を推進

[共創メンバー]

- スタートアップ：株式会社 SlowFast
- 区内企業・団体：東武鉄道株式会社

18 プログラミング×探究学習／理科×探究学習プログラムの共同開発

プログラミング×探究学習プログラム



■プロジェクト概要

「探究心×技術力=イノベーション」DJ RoboticsはBYDと共同でプログラミング/生成AIと探究学習を融合させた次世代の教育プログラムを開発。自ら課題を発見する探究能力だけではなく課題を解決するアイデアを形にする能力を育てることに焦点を当てている

■目指している効果

技術的スキルと探究心を兼ね備えた理工分野の将来におけるイノベーションの担い手の輩出を目指す

理科×探究学習プログラムの共同開発



■プロジェクト概要

「理科研究をより画期的に！」BYDが探究学習のノウハウを生かしたコンテンツ制作。花王が国内トップクラスの様々な科学のエッセンスを提供し、中高生向けの理科探究プログラムを共同開発・提供

■目指している効果

より一層理科が好きになり理科にハマる中高生(理系人材)の輩出

[共創メンバー]

- スタートアップ：株式会社 BYD、合同会社 DJ Robotics
- 区内企業・団体：花王株式会社

19 デバイス改良・ファン増加施策における共創としての社会実験イベントへの出展



■プロジェクト概要

錦糸堀公園にて社会実験イベントに参画。すみだに本拠地を構えるプロフットサルチーム「フウガドールすみだ」の選手の協力もえながら、sci-boneのモーションキャプチャデバイスを活用したシュートフォーム解析ブースを出店

■目指している効果

フウガドールすみだ：認知・ファン層の拡大
sci-bone：フットサル選手のデータ獲得によるプロダクト性能向上

[共創メンバー]

- スタートアップ：株式会社 sci-bone
- 区内企業・団体：株式会社風雅プロモーション

20 越境ECの活用によるすみだらしい商品の海外への販路拡大

"粋" HOKUSAI 長財布 "神奈川沖浪裏"



■プロジェクト概要

コネクトすみだにおける越境ECツールの活用による、すみだらしい商品の海外での販路拡大

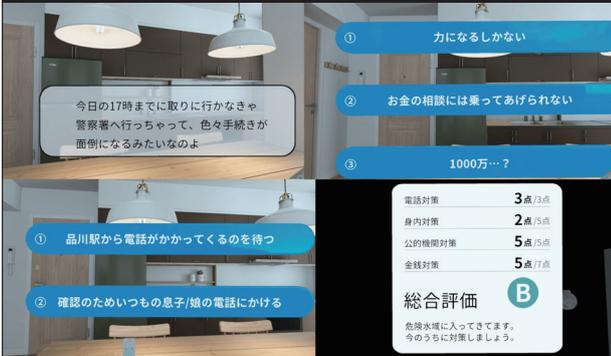
■目指している効果

- ・ 墨田区観光協会の自主事業における収益拡大
- ・ 地域経済への波及をもたらす、稼げる観光産業の構築

[共創メンバー]

- スタートアップ：株式会社ジグザグ
- 区内企業・団体：一般社団法人墨田区観光協会

21 スタートアップ×金融機関で取り組む XR体験学習による特殊詐欺被害防止



■ プロジェクト概要

ABALが詐欺のリアルな状況を学習できるXRコンテンツを開発。三井住友銀行錦糸町支店が銀行のセミナー・活動として特殊詐欺被害防止講座と繰り返し学習ができるアプリを顧客向けに提供し、学習効果の向上・定着度合いと社員の意識変化等を実証

■ 目指している効果

XRによる講座の学習効果定着を通じた特殊詐欺被害防止の抑制と銀行と顧客のコミュニケーション促進

[共創メンバー]

- スタートアップ：株式会社ABAL
- 区内企業・団体：株式会社三井住友銀行

22 XR技術を活用した地域防災行動力の向上



■ プロジェクト概要

XR技術を活用した防災訓練案策定・XRコンテンツ作成ワークショップ (WS) を区内中学生に提供し、当該訓練案とXRコンテンツを町内会防災訓練にて発表

■ 目指している効果

XR技術を活用した防災訓練の新メニューと防災コンテンツ導入による新規防災訓練参加者の獲得・地域の防災力の向上

[共創メンバー]

- スタートアップ：株式会社STYLY
- 区内企業・団体：錦糸三和町会、錦糸中学校

23 電動バイク向けのバッテリーサブスクリプションサービスの共同提供



※株式会社東芝HP「Toshiba's Innovative Rechargeable Battery Set to Elevate Safety and Reliability of Electric Motorcycle Taxis, Addressing Fire Risks」より引用

■ プロジェクト概要

バンコクにおける、電動バイクタクシー向けバッテリーサブスクに関する実証実験

■ 目指している効果

東芝のリチウムイオン電池SciB™の10年を超える長寿命、6分で充電できる急速充電特性、釘を刺しても燃えない安全性を利用して、常時高温のバンコクにおいて低価格な電池サブスクサービスを提供し、CO₂排出削減に貢献 ※SciBは(株)東芝の商標です。

[共創メンバー]

- スタートアップ：株式会社ナチュラニクス
- 区外企業・団体：株式会社東芝

24 区内ものづくり企業との共創を見据えたNPO法人と連携したパラスポーツの普及



■ プロジェクト概要

福祉領域での活動経験を有するデザイナーによるパラスポーツ用品の開発と、NPO法人との連携による支援を通じた競技環境づくり

■ 目指している効果

挑戦を続ける人々を技術やデザイン、知見で支えつつ障害者スポーツの可能性を広げ、さらに次世代の選手が挑戦を続けやすい環境を整えること

[共創メンバー]

- スタートアップ：LITTLE BY LITTLE
- 区外企業・団体：NPO法人ParaNori

スタートアップ×墨田区の共創

25 デザイン思考を活用した探究教育ツールの開発／企業×高校生による宇宙業界をテーマにしたビジネスアイデアの創出

デザイン思考を活用した探究教育ツールの開発



■ プロジェクト概要
 うちゅうが小中学校向けの探究教育ツールの教材・研修プログラムを開発して、教員向けに研修を開催。研修開催後、一部の学校に対して伴走支援を行って教員主導での探究授業を行い、探究教育ツール活用の自走化に向けた運用モデルを構築

■ 目指している効果
 探究教育の教員研修の開発を通じた水平展開可能なモデルの構築と、探求的な学びの実践を通じた子どもたちの行動変容を促す

企業×高校生による宇宙業界をテーマにしたビジネスアイデアの創出



■ プロジェクト概要
 経済産業省の「未来の教室」に採択され、宇宙産業をテーマにした探究学習と産業連携型教育プログラム「コウセン (Co-1000)」を実証。高校生・大学生が企業と協働しながら、リアルな課題解決や新規事業創出を実践的に学ぶ場を提供

■ 目指している効果
 企業との対話を通じた実践的な学びをもとに高校生たちが未来を創造する力を育む

[共創メンバー]
 ■ スタートアップ：株式会社うちゅう
 ■ 行政：墨田区指導室

26 美術館の空間・美術品×MR技術による来館者の体験価値向上



■ プロジェクト概要
 すみだ北斎美術館の空間・美術品を対象にMR技術を活用したイマーシブな多言語音声コンテンツを来館者へ提供

■ 目指している効果
 美術館とMR技術のかけ合わせによるインバウンドを中心とした誘客効果向上、来館者満足度向上及び再訪意欲の向上

[共創メンバー]
 ■ スタートアップ：株式会社GATARI
 ■ 行政：墨田区文化芸術振興課

27 子ども・若者の意見を政策反映するカードゲーム・ワークショップ開発



■ プロジェクト概要
 子ども・若者の声がまちづくりの原動力となる社会を目指し、子ども・若者を対象にしたまちの課題・魅力を発見できるカードゲームとそれを活用したワークショップ (WS) を開発

■ 目指している効果
 カードゲームを利用したWSによる子ども・若者のまちづくりへの興味関心喚起・行動変容及びWSを通じて得られた声の行政への共有

[共創メンバー]
 ■ スタートアップ：一般社団法人Spice
 ■ 行政：墨田区政策担当

28 IoTを活用したDXによる災害時における重度要配慮者避難の円滑化



■ プロジェクト概要
 水害等災害時における重度要配慮者（自力での避難が困難な者）の個別避難計画DXアプリとIoTを活用した避難支援マッチングアプリの開発

■ 目指している効果
 アプリを通じた個別避難計画策定の簡略化と水害等災害時における重度要配慮者と支援者のマッチング円滑化による避難の迅速化

[共創メンバー]
 ■ スタートアップ：株式会社VALUECARE
 ■ 行政：墨田区障害者福祉課

29 海底・河川の観測ができる 自律操船の小型無人ボートの開発

UMIAILE



SOLUTION

UMIAILEはASVで
顧客の望む海洋データを提供し
ヒト・モノ・カネの課題から解放する

■プロジェクト概要

小型無人ボートUMIAILE ASVの区内ものづくり企業との開発改良や、海洋データプラットフォーム構築を目指した自律航行による海底地殻変動観測・河川地形図等作成を実施。主に墨田区が管理する区内河川を活用した実証実験を行う

■目指している効果

開発改良をした小型無人ボートの自律航行による海底・河川観測の効率改善と海洋データ市場創出

[共創メンバー]

- スタートアップ：株式会社UMIAILE
- 行政：墨田区都市整備課

30 高輝度蓄光素材を活用した非電力 サイン「ナイトコンシェルジュ®」



■プロジェクト概要

混雑が集中する隅田川花火大会の会場内で、日中も暗闇も視認性が高く、設置が容易な非電力の発光サインで来場者の移動をエスコート

■目指している効果

従来掲示にはない視認性と分かりやすさで会場運営をサポート。単なる誘導ツールではなく、光るサインやスタッフのアイテムがユーモアと楽しさを演出

[共創メンバー]

- スタートアップ：株式会社humorous
- 行政：墨田区公園課

31 スマホひとつでドッグラン入場！ 愛犬家の利便性向上を公園で実証

「すみだドッグパーク」と「Wan!Pass」の連携で、より快適な利用へ。



■プロジェクト概要

ペットオーライが運営している「ワンちゃんのお出かけ支援アプリ」を墨田区立隅田公園内に試験設置された「すみだドッグパーク」にて導入。ワクチン接種証明書のアップロード等の入場条件を設定し、アプリのチェックイン機能を活用して利用者の利便性向上と管理者の業務効率化を検証

■目指している効果

ペットオーナーの利便性向上・施設の安心利用、施設運営者の業務効率化やペットオーナーのマナー向上を通じたペットとの共生社会の実現

[共創メンバー]

- スタートアップ：ペットオーライ株式会社
- 行政：墨田区公園課

32 すみだの子どもたちに体験の機会を！ 「ハロカルホリデーすみだ」の開催



■プロジェクト概要

チャンス・フォー・チルドレンが墨田区等とともに実行委員会を組成し、すみだの約2,600人の子どもたちへ職業体験・スポーツ・文化芸術・自然体験等が体験できる「ハロカルホリデーすみだ」を開催。片岡屏風店やDJ Robotics等のSIC会員も体験プログラムを企画・提供

■目指している効果

子どもが自らの創造力を広げその可能性を最大限に発揮することができるよう子どもの体験の機会を確保

[共創メンバー]

- 区内企業・団体：公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン、一般社団法人SSK
- 行政：墨田区子育て支援課
- 区内ものづくり企業：株式会社片岡屏風店
- スタートアップ：合同会社DJ Robotics

共創ストーリー

SICならではの共創ストーリーを有する
プロジェクトをご紹介します

Story 1

スタートアップ
×
区内ものづくり企業
×
区内ものづくり企業

すみだの技術を融合した
ピックルボール
コートマットの開発



写真左：株式会社BAKUAGE 渡邊 史郎氏 写真中央左：有限会社サトウ化成 佐藤 憲司氏
写真中央右：ナガセケンコー株式会社 小坪 政寿氏 写真右：ナガセケンコー株式会社 椎名 茂人氏

スポーツに対する思いから共創がスタート SICでの偶発的な出会いにより共創が加速

運動の得意不得意を問わず、あらゆる人が楽しめるニュースポーツによって自己実現できる社会を目指すスタートアップ・BAKUAGEと、ソフトテニスボール・バドミントンコート等のスポーツ用品を製造する区内ものづくり企業・ナガセケンコーは、アメリカで大流行しているニュースポーツ・ピックルボールのコートマット開発の共創に取り組んでいます。新たな市場開拓と自社製品開発を模索していたナガセケンコーと、様々なニュースポーツの製品開発ニーズを把握するBAKUAGEのメリットが合致して共創を開始しました。

順調に開発が進んでいましたが、製品化に向けた壁にぶつかります。頭を悩ませていたところ、SICのイベントでウレタン・保護材の加工を得意とする区内ものづくり企業・サトウ化成との出会いがありました。プロダクトを見せたところ、その場で改良の提案があり、一緒に共創を進めるようになりました。

ピックルボールに留まらず、ニュースポーツ の聖地としてのポジション確立を目指す

サトウ化成・佐藤氏は「ニュースポーツは未知の分野であり面白く、自社にとって新たなアイデアを得られる有意義な機会だと感じる。将来、ウレタン素材を利用したニュースポーツを考案したい」と意気込みます。

BAKUAGE・渡邊氏も「ニュースポーツは新たな考案・開発の障壁が低く、スポーツ全体の活性化にもつながる。将来的にはすみだをニュースポーツの聖地として、すみだ発のスポーツがたくさん輩出されるような状態にしたい」と熱を込めます。

ナガセケンコー・椎名氏、小坪氏も「スポーツ人口が増加することは自社にとってメリットが大きく、新たなスポーツ用品開発の面で共創を続けたい」と呼応します。

年度内にはピックルボールのコートマット開発・販売を予定しています。本プロダクトの開発を成功させた後も、さらに新たなニュースポーツ用品の開発を目指していきます。



株式会社BAKUAGE



ナガセケンコー株式会社



有限会社サトウ化成

Story 2

スタートアップ × 区内ものづくり企業

りんごの残渣を活用した
エシカルレザーによる
製品開発



写真中央左：appcycle株式会社 藤巻 圭氏 写真中央右：有限会社東屋 木戸 麻貴氏
写真左・右：共創を伴走支援したSICのスタートアップ相談員とコミュニティ・マネージャ

スタートアップ相談員と コミュニティ・マネージャがつないだ共創

「アップサイクルでサステナブルな未来を創造する」を理念とした、りんごの聖地である青森発のスタートアップ・appcycleは、新製品開発に向けた共創先を模索していました。相談を受けたスタートアップ相談員と、会員の顔を良く知るコミュニティ・マネージャの間で浮かんだのが、創業100年を超える両国の革小物製品専門店・東屋でした。

「地元や地域を元気にしたい」という 共通の想いが共創の原動力に

東屋・木戸氏は「最初は藤巻さんの勢いに圧倒されました。ただ、実際にお会いして伺った青森への熱い思いから、地域を元気にしたいという共通点も感じ、一緒に取り組みたいと思うようになりました」と語ります。appcycle・藤巻氏も「東屋の洗練された製品や長い歴史が魅力的であると同時に、木戸さんの丁寧に向き合ってくださいる人柄がとてもありがたかったです」と振り返ります。

「立場を超えた相手への思いやり、愛」が 中長期的な関係性・共創へとつながる

藤巻氏は「我々の言葉ではうまく伝わらない場面もありましたが、相談員の積極的な助言があり、共創がうまく進みました」と話し、木戸氏も「悩みがあれば、コミュニティ・マネージャがすぐに寄り添ってくれました」と共感します。

加えて、藤巻氏は「今回、新しい開発方法を取り入れて自社の可能性が広がりました。製品の開発改良・全国展開を進めていきたい」と話します。木戸氏も「今後は自社が得意とする小ロット生産とは異なる領域に踏み出す可能性があります。今回の本革以外での製品開発に挑戦した経験を生かして、次の壁を乗り越えたい」と呼応しました。

両者ともに「共創で大事なものは、相手への思いやりであり、愛。立場を超え、SICも含めて4人で1チームとなれたことが大きい」と、共創を通じて得た関係性こそが価値であると話します。今後も、中長期的な関係性づくりを見据えて、1チームで共創を進めていきます。



◀ appcycle株式会社



◀ 有限会社東屋

Story 3

区内ものづくり企業

×

スタートアップ

×

専門企業

地域住民と工場の共生を
目指す防音プロジェクト



写真右：株式会社ヨシズミプレス 吉住 研氏 写真中央：株式会社ピットアパット 大井 雅人氏
写真左：株式会社中外 浜田 若狭氏

製造業発の社会課題解決を実現したい想いと 各自のニーズがマッチして共創を開始

製造現場に特化した防音材開発は、SICメンバー会員であり、製造業と関わりの深いデザイナーであるピットアパット・大井氏の「製造業自らが社会課題解決に取り組み、変革を起こす事例を作りたい」という想いから始まりました。工場から出る音の問題を抱えるヨシズミプレス・吉住氏が想いに共感、自動車の防音材製造専門・中外の新製品開発ニーズともマッチし、共創が始まりました。

製造業自らが工場の音の課題解決に 取り組む姿勢が業界活性化の原動力へ

ヨシズミプレスは課題の当事者、また課題解決の主体者として、従来の製造過程とは異なる0からの製品開発に挑む中で「働く従業員や関係企業からの注目が集まっている」と話します。共創を持ち掛けた大井氏も「設計・製造・開発までの全てを手掛けているヨシズミプレスだからこそその強みを生かした製品開発ができるのでは」と

期待を寄せています。

呼応するように、吉住氏も「さらに従業員を巻き込みながら、自らの挑戦がほかの製造業への刺激を生み出し、業界全体の盛り上がりにつなげていきたい」と想いを語りました。

立ち足かる壁を乗り越えて真に求められる プロダクトによる社会変革を目指す

プロトタイプ実証実験の採択を受け、墨田区・SICのつながりを活用し、工場の音の課題を把握するための区内製造業向けのアンケートを実施しました。今後は収集した声を分析して、プロダクト開発に反映します。中外・浜田氏は「音は感覚であり、数値による分析だけでは伝わりにくい面がある。より効果的な表現方法に挑みたい」と新たなハードルへの挑戦に燃えています。大井氏も「工場が身近な人にとって作業音は当たり前。無意識に蓄積する心身のストレスを和らげて、少しでも働きやすい環境を作りたい」と共感しました。今後はプロダクトの開発改良を進めて、工場の音の課題解決を通じた地域住民と工場の共生の実現を目指します。



◀株式会社ヨシズミプレス



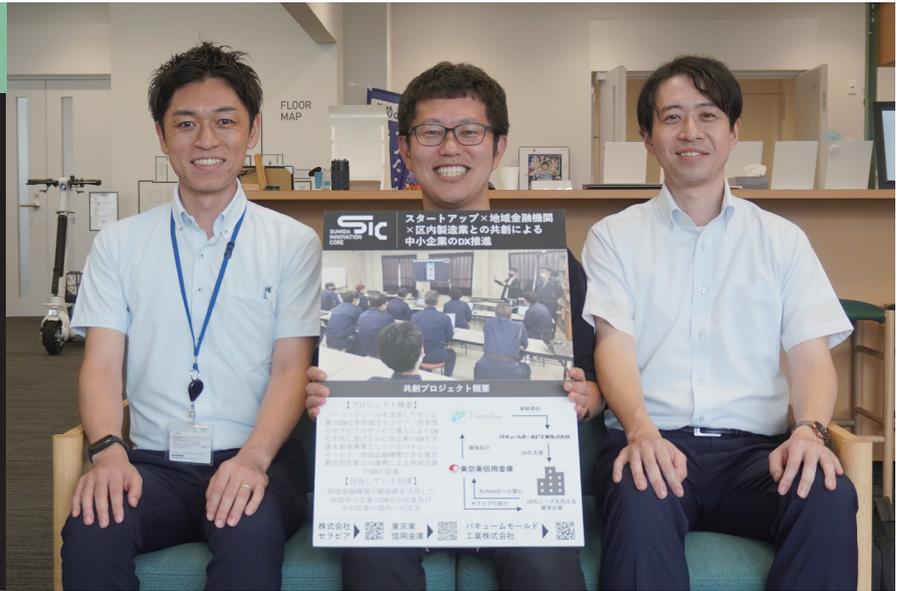
◀株式会社ピットアパット



◀株式会社中外

Story 4

スタートアップ
×
区内ものづくり企業
×
地域金融機関
すみだの中小企業全体の
DX推進



写真左：東京東信用金庫 関拓也氏 写真中央：株式会社セラピア 田中圭氏
写真右：バキュームモールド工業株式会社 安部勇人氏

区内ものづくり企業が自らDXを担う 事業の多角化につながった新しい形の共創

スタートアップ・セラピアと区内ものづくり企業・バキュームモールド工業の共創は、令和4年度にプロトタイプ実証実験の採択を受けて開始しました。セラピアによるノーコードツールのコーチングを受けて、バキュームモールド工業社員がアプリの自社開発に取り組む中で、社内DXに留まらず、アプリ開発を共同受注できるようになり、ものづくり企業自らがDX事業も担う多角化につながりました。

両社は中小企業のDXをさらに進めたいと考えてSICに相談したところ、事業連携パートナーである東京東信用金庫（ひがしん）の紹介につながりました。ひがしん・関氏は「すみだに根差す信用金庫として地域の事業者の課題解決やSIC事業連携パートナーとして地域貢献に積極的に関わりたいと考えていた」と語ります。両社の想いに共感をしたひがしんが、DXを必要とする区内中小企業を紹介する役割を担う形で共創に加わりました。

共創で最も重要なことは「課題解決の先にあるビジョンの共有と共感」

共創を成功させるためには、お互いに信頼関係を築いていることが前提にあるとしたうえで、3者は口を揃えて「個別の課題解決だけに焦点をあてるのではなく、課題解決の先にあるビジョンまで共有できていること。また、そのビジョンにお互いに共感できていることが重要」と語ります。セラピア・田中氏は「個社のDXに留まらず、ものづくり企業全体のDXの実現を思い描いている」と話し、バキュームモールド工業・安部氏も「社内DXが完了した先に、ものづくり企業として、どうあるべきかを常に考えている」と呼応します。ひがしん・関氏も「DXはすみだのものづくり企業全体が活性化するための手段の一つ、すみだの経済活性化にもつながる」と共感しており、全員が現場の課題解決の先にあるビジョンを見据えています。

今後はビジョンを実現すべく、すみだのものづくり企業全体のDX推進と発展につなげるために、3者での共創をさらに進めていきます。



株式会社セラピア



バキュームモールド工業株式会社



東京東信用金庫

Story 5

スタートアップ × 区内大学

認知症予兆検出サービスの
社会実装



写真左：千葉大学予防医学センター 鈴木 規道氏
写真右：株式会社IGSA 松島 創一郎氏

公・民・学連携を生み出す 「UDCすみだ」とSICがつないだ共創

スマホで利用できる認知症予兆検出アプリ「はなしてね」を開発するスタートアップ・IGSAは、認知症という繊細なテーマの中で、ユーザーが前向きに利用できるサービス設計が課題でした。SICを通じて、公・民・学の共同運営組織・UDCすみだのつなぎこみにより、地域と連携して予防医学に取り組む千葉大学予防医学センターとの共創が始まります。

千葉大学の研究開発拠点「あつまレ」の初めての事例としてスタート

共創の開始とほぼ同時に、千葉大学墨田サテライトキャンパスに「あつまレHUB・LAB・SUMIDA」がオープンしました。地域住民に向けて様々な健康プログラムの体験を提供する拠点です。IGSAにとっては住民の声を集められる環境であり、千葉大学にとっては初事例として拠点の活用可能性を高める機会となり、双方のメリットが合致しました。

共創のエンジンは 「真に価値を生む」という共通の想い

千葉大学・鈴木氏は「住民の声を吸い上げて一緒に開発すること自体が共創であり、ユーザーが本当に欲しいものにつながる」と話します。公的な研究機関の立場だからこそ、1民間企業の特定の視点に縛られずに、真にユーザー目線に立った助言や取組をしています。

IGSA・松島氏も「一緒に共創を進めるうえで“ユーザーにとって真に価値があるものが生きたい”という共通の価値観を持てることが重要」と共感します。千葉大学・鈴木氏の助言により、ユーザーの使いやすさをスコアで評価する手法を取り入れました。また、「あつまレ」という住民と対面で話せる環境があるからこそリアルな感覚も踏まえた改善が着実に進み、ユーザーが前向きに利用したくなる真に価値あるサービスに近づいています。

認知症に悩む方が減る世界の実現に向けて、多くの方に「あつまレ」で「はなしてね」を体験いただき、社会実装を進めていきます。



◀UDCすみだ



◀株式会社
IGSA



◀はなしてね
(アプリ)



◀千葉大学
予防医学
センター



◀あつまレ
HUB・LAB・
SUMIDA

Story 6

スタートアップ
×
区内大企業

子ども靴の
循環モデルの実現



写真左：東武鉄道株式会社 根岸 秀行 氏 写真中央左：株式会社SlowFast 谷口 昌優 氏
写真中央右：東武鉄道株式会社 柳瀬 拓弥 氏 写真右：東武鉄道株式会社 大矢 幸代 氏

子ども靴の循環型社会の実現に向けた
取組に共感して共創がスタート

「サイズアウトした靴の廃棄処分を無くしたい」という思いから創業したスタートアップ・SlowFastは、子ども靴レンタルのサブスクリプションサービスを提供しています。

一方で、「購入の段階から関与せずに、子ども靴の循環モデルを実現できるのか」と疑問を抱いており、SICの相談支援を活用しながら、子ども靴の製造を決意しました。

子どもに大人気な電車のIP活用に可能性を感じ、SICを経由して区内大企業である東武鉄道との協議を開始しました。東武鉄道・根岸氏は「環境負荷の低減に資する活動を模索している中で、親和性を感じた」と語ります。

柳瀬氏も「循環型社会の実現に対する思いに共感し、IP提供を通して貢献したいと感じた」と振り返ります。本取組の社会的意義や東武鉄道のブランドへの寄与を訴求し、墨田区・SICの支援があることも後押しとなり、両社での共創がスタートしました。

相手に合った「共創」で仲間を呼び込み
1社では実現できないビジョンを実現する

SlowFastは「捨てるを減らして親子と地球の豊かさを実現する」というビジョンを掲げています。SlowFast・谷口氏は「このビジョンを自分たちだけで実現するのではなく、同じ価値観・理念をもった方々と一緒に手を取り合いながら実現を目指していく」と共創を軸とした姿勢を語ります。東武鉄道・柳瀬氏も「社会にインパクトを与えるビジョンは、共に実現を目指す仲間の存在が重要」と共感を示すとともに、「共感する価値観は人・企業によって異なる。多様なステークホルダーを巻き込む際には、相手の考えや立場を理解したうえでのコミュニケーションが大切。その際に、SICが間に立ってつなぎ役として強みを発揮してほしい」と語りました。

今後も、スタートアップと大企業という異なる立場の2社が、子ども靴の循環モデルの実現という大きなビジョンの実現に向けて、共創の取組を進めていきます。



◀株式会社 SlowFast



◀東武鉄道株式会社

浜野製作所・共創の軌跡 「ものづくり企業×スタートアップ 共創の次なるステージ」

スタートアップの情熱への共感から始まった浜野製作所の共創



株式会社浜野製作所
代表取締役 CEO 浜野 慶一 氏

1993年、創業者である浜野嘉彦氏の後継として代表取締役社長に着任。オリィ研究所、チャレナジー、WHILL等の日本を代表するハードウェアスタートアップの支援実績を多数有する。2024年に代表取締役会長に就任し、現在に至る。

—— 浜野製作所がスタートアップとの共創を始めたきっかけを教えてください

浜野製作所・浜野氏：最初に支援したスタートアップはオリィ研究所です。2012年、当時大学2年生だった同社の代表から「孤独を解消するコミュニケーションロボットを作りたい」と相談を受けました。代表本人が幼少時代に病気がちで病室で過ごす日々が孤独だったという原体験と「今でも数万人の子どもが同じ境遇にあり、彼らを何とかして助けたい」という情熱を聞き、「この想いに協力しないわけにはいかない」と強く感じたことをきっかけに、共創を開始しました。

—— スタートアップとの共創によって、どのような変化がありましたか

浜野氏：オリィ研究所のメンバーが泊まる部屋がなく、私のマンションに住んでもらいました。彼らはものづくりのノウハウは無かったため、浜野製作所で働いてもらいました。そうすると、浜野製作所の社員とぐっと距離が近づき、密な議論や濃いコミュニケーションが増えていきます。スタートアップが持つ社会課題解決への高い意欲、ものづくりへの情熱や新しいアイデアに触れることで浜野製作所も刺激を受けましたし、社員のモチベーション向上にもつながりました。この経験をもとに2014年にGarage Sumidaをオープンし、ものづくり企業としての事業とハードウェアスタートアップの支援をしています。

すみだらしい「間口の広いものづくり」の文化を大切にしたい

—— SICでもスタートアップと区内ものづくり企業の共創に向けた場づくりを促進しています

BAKUAGE・渡邊氏：私はスポーツが好きではなかったのですが、メジャー競技ではないスポーツで入賞して「自分でもできる」と感じた原体験をきっかけに、あらゆる人が楽しめるニュースポーツによって自己実現できる社会を目指しています。

ナガセケンコー・椎名氏：SICでのつながりをきっかけに、BAKUAGEとニュースポーツの製品開発に取り組んでいます。開発を進めていく中でぶ

つかる課題の解決に向けて、SICで複数の区内ものづくり企業との意見交換会を開いてもらい、新たな試作を進めています。

浜野氏：すみだのものづくり企業は気軽に相談に乗る気質があります。相談にきたスタートアップのプロダクトを前にして、職人たちが、ああでもない、こうでもない意見を交わす「間口の広さ」がすみだのものづくりの強み・大切にしてきた文化です。

継続的な関係構築につながる 双方がメリットを獲得できる共創へ

— SICでは共創の先にあるものとして、スタートアップと区内ものづくり企業の双方の成長を目指しています

浜野氏：そこを見据えることは非常に大切です。スタートアップの想いに共感しながらプロダクト開発を一緒に行うことは、ものづくり企業にとって価値が高いものです。一方で、共創を進めていく中で、ものづくり企業は相応の時間を割いており、時には一方的に知見・ノウハウを提供するようなシーンも見受けられます。もちろん、即時の経済的なメリットをスタートアップが提供するのには難しい部分もあります。そうした中で、ものづくり企業が知見・ノウハウを提供し、スタートアップだからこそそのメリットを提供することで、良好な関係が継続するのではないのでしょうか。

サトウ化成・佐藤氏：SICを通じて様々なスタートアップとの共創を開始して、ものづくり企業の立場として経済面以外のメリットも感じています。今回、BAKUAGEとナガセケンコーの共創にも加わりましたが、これまで自分の知ることので

きなかった世界と関わることで、自社の事業にどのように生かせるか、と考えるきっかけになりました。

ナガセケンコー・小坪氏：ナガセケンコーとしても多様なメリットは受けつつも、将来的に市場が拡大する見込みのあるピクセルボールのコートマット開発というビジネス面でのメリットを感じられていることが大きく、継続的な関係につながると感じています。

浜野氏：共創の経験が少ないものづくり企業は、スタートアップから刺激を受けて社員の士気が向上することがメリットかもしれません。共創の経験が豊富なものづくり企業は、長期的なビジネス創出や自社の技術革新につながることもかもしれません。いずれにしても、継続的な関係を構築するためには、情熱や感謝といった気持ちに加えて、相手にどのようなメリットが生めるか、ということのを常に意識しておくことが必要です。その点を実現することが、ものづくり企業とスタートアップの共創の次なるステージと考えています。

ニュースポーツ製品開発の共創に取り組む3社と浜野会長との意見交換の様子（共創の詳細は、21ページの共創ストーリー参照）。

写真左：株式会社浜野製作所
浜野 慶一氏

写真中央左：有限会社サトウ化成
佐藤 憲司氏

写真中央：株式会社BAKUAGE
渡邊 史郎氏

写真右：ナガセケンコー株式会社
小坪 政寿氏／椎名 茂人氏



墨田区・SICらしい価値提供を追求し続けてほしい

浜野氏：スタートアップ支援施設が飽和する中で、江戸時代から続くものづくりの地であるすみだにおいて産業共創施設の看板を掲げ、ものづくりを中心にした共創を進めていることがSICの価値と捉えています。今後、ものづくり企業とスタートアップがWin-Winとなり、長期的な

関係を有する共創事例がSICから多数輩出されていくことが、すみだにとどまらず、日本全体のものづくり企業に希望をもたらすことになると考えています。ぜひ、今後も墨田区・SICらしい価値提供を追求し続けることを期待しています。

墨田区産業共創施設
SUMIDA INNOVATION CORE

東京都墨田区錦糸4-17-1
ヒューリック錦糸町コラボタワー 4階
TEL : 03-5637-7667

メールアドレス : info@sic-sumida.net
ホームページ : <https://sic-sumida.net>

